

榎倉康二 Koji ENOKURA

- 1942 東京生まれ
1966 東京藝術大学油画科卒業
1968 東京藝術大学大学院美術研究科油画専攻修了
1995 死去

主な個展

- 2025 「榎倉康二 没後 30 周年展」スペース 23°C、東京
「没後 30 年 榎倉康二」東京国立近代美術館、東京
- 2021 「榎倉康二 エスキース」スペース 23°C、東京
- 2020 「榎倉康二 Photo Works TV 未発表作品を含む」スペース 23°C、東京
「榎倉康二 水彩 (1960 年代)」スペース 23°C、東京
「榎倉康二 Drawings」スペース 23°C、東京
- 2019 「榎倉康二の点展」スペース 23°C、東京
- 2018 「榎倉康二 PRINT WORKS 1979-1989」スペース 23°C、東京
「榎倉康二 in 蔵 kura」国田屋醸造・蔵カフェ千の花、福島
東京画廊+BTAP、東京
- 2017 「榎倉康二展」スペース 23°C、東京
「Skin」東京パブリッシングハウス、東京
「Figure」タカ・イシイギャラリー、東京
- 2016 Veneklasen Werner、ベルリン、ドイツ
タカ・イシイギャラリー、東京
- 2015 「STORY & MEMORY」東京パブリッシングハウス、東京
タカ・イシイギャラリー、東京
「榎倉康二・1995 年 10 月」スペース 23°C、東京
「写真の仕事 日常」スペース 23°C、東京
- 2014 「ドローイング」スペース 23°C、東京
「1960 年代の油彩・水彩・コラージュ」スペース 23°C、東京
「榎倉康二 しみ 紙・布・板」スペース 23°C、東京
- 2013 「榎倉康二 写真の仕事「道」他」スペース 23°C、東京
「版」Ohshima Fine Art、東京
Blum & Poe、ロサンゼルス、アメリカ
McCaffrey Fine Art、ニューヨーク、アメリカ
- 2012 「写真の仕事」スペース 23°C、東京
「Figure, Drawing」Ohshima Fine Art、東京
「記写」タカ・イシイギャラリー、東京

- 「榎倉康二 Print Works」スペース 23℃、東京
東京画廊+BTAP、北京、中国
- 2011 「榎倉康二 VESUVIO Project 1972」東京パブリッシングハウス、東京
「Drawing」スペース 23℃、東京
- 2010 「榎倉康二展」スペース 23℃、東京
「榎倉康二の「点展」」横田茂ギャラリー（主催：東京パブリッシングハウス）
「予兆としての“絵画”」Ohshima Fine Art、東京
「'90s Print Works and Painting」島田画廊、東京
「Photographic Works」スペース 23℃、東京
東京画廊+BTAP、北京、中国
- 2009 「榎倉康二 ドローイング」スペース 23℃、東京
「'80s Print Works」島田画廊、東京
- 2008 「紙と油」スペース 23℃、東京
- 2007 「干渉率」スペース 23℃、東京
- 2006 「木炭デッサンⅡ」スペース
「SPACE TOTSUKA '70—写真で見る」スペース 23℃、東京
- 2005 「榎倉康二展「版」再び」ギャラリー池田美術、東京
「榎倉康二展」東京都現代美術館、東京
「榎倉康二展 壁 写真によるメモ」スペース 23℃、東京
「「染み」が描かれるようになったわけ」gallery 21yo-j、東京
「木炭デッサン」スペース 23℃、東京
「Sumi Semi Project 4 : Wall to Fall 榎倉康二の壁より」和光大学、東京
- 2004 「Collection No.8 榎倉康二展」スペース 23℃、東京
- 2002 「Retrospection—「版」と「現代美術」と—2002 Spring」ギャラリー池田美術、東京
「榎倉康二—Behind the Curtain」ギャラリー池田美術、東京
「榎倉康二の写真—今、再びの読み」ギャラリー池田美術、東京
- 2000 「榎倉康二作品展」スペース 23℃、東京
- 1998 阿久津画廊、前橋
- 1996 「榎倉康二遺作展 Koji Enokura 1964–1995」東京藝術大学芸術資料館陳列館上野校、東京
／東京藝術大学芸術資料館取手館取手校、茨城
「追悼・榎倉康二展 Print Works」ギャラリー池田美術、東京
- 1994 「近作展 14—榎倉康二」国立国際美術館、大阪
「榎倉康二・写真のしごと 1972–1994」斎藤記念川口現代美術館、川口
- 1991 東京画廊、東京
- 1989 「Kōji Enokura Project」サバンク・テンポラリー・ミュージアム、東京
- 1988 東京画廊、東京
- 1984 Gallery Baudoin Lebon、パリ、フランス
- 1983 東京画廊、東京

- 1980 東京画廊、東京
1978 東京画廊、東京
「榎倉康二 干涉率」西村画廊、東京
1974 「榎倉康二 ある一つの日本の例」アーヘン市立美術館、アーヘン、西ドイツ
1969 「The Ceremony of Walking (歩行儀式)」椿近代画廊、東京

主なグループ展

- 2025 「Minimal」Bourse de Commerce – Pinault Collection、パリ、フランス
2022 「龍美術館 10 周年特別展」龍美術館、上海、中国
「美術にまつわる 5 つの話—いつもそこにある—」岡崎市美術博物館、愛知
「サンセット／サンライズ」豊田市美術館、愛知
「雲をつかむ:原美術館／原六郎コレクション」原美術館 ARC、群馬
2021 「ab-sence/ac-ceptance 不在の観測」岐阜県美術館、岐阜
2020 「小品展」東京画廊+BTAP、東京
「絵画のミカタ」群馬県立美術館、群馬
2019 「Tribute Mono-ha」Cardi Gallery、ロンドン、イギリス
「描く、そして現れる—画家が彫刻を作るとき」DIC 川村記念美術館、千葉
「DECODE／出来事と記録—ポスト工業化社会の美術」埼玉県立近代美術館、埼玉
2018 「Topologies」The Warehouse、ダラス、アメリカ
「Primal Water」Bellagio Gallery of Fine Art、ラスベガス、アメリカ
「類は友を呼ぶ」兵庫県立美術館、兵庫
「バブルラップ」熊本市現代美術館、熊本
2017 「Who Can Be Strangers? The Art of Mono-ha and Dansackhwa」Blum & Poe at Adrian Rosenfeld Gallery、サンフランシスコ、アメリカ
「ジャパノラマ Japanorama 1970 年以降の新しい日本のアート」ポンピドゥ・センター・メッス、メッス、フランス
「態度が形になるとき —安齊重男による日本の 70 年代美術—」国立国際美術館、大阪
2016 「村上隆のスーパーフラット・コレクション—蕭白、魯山人からキーフアーまで—」横浜美術館、神奈川
「Blackness in Abstraction」Pace Gallery、ニューヨーク、アメリカ合衆国
2015 「For a New World to Come: Experiments in Japanese Art and Photography , 1968-1979」ヒューストン美術館、ヒューストン、アメリカ／Grey Art Gallery、ニューヨーク、アメリカ
「モノハ・ソサエティ、ニューヨーク、アメリカ
「Mono-ha: Works on Paper」東京画廊+BTAP、東京
「現代京都藝苑 2015 : 素材と知覚——「もの派」の根源を求めて」遊狐草舎、京都
「高橋コレクション展:ミラー・ニューロン」東京オペラシティアートギャラリー、東京
「Mono-ha」Fondazione Mudima、ミラノ、イタリア
「事物」—1970 年代の日本の写真と美術を考えるキーワード」東京国立近代美術館、

東京

「Five Decades: Sculpture and Works on Paper」Simon Lee Gallery、ロンドン、イギリス

「No Museum, No Life?—これからの美術館事典 国立美術館コレクションによる展覧会」

東京国立近代美術館、東京

「Tout le Monde」Centre d'Art Contemporain d'Ivry: Le Crédac、イヴリー=シュル=セヌ、フランス

「Refrection: 返礼—榎倉康二へ」秋山画廊、スペース 23°C、gallery21yo-j、東京

「Breaking through to the actual via the imagination: Long Museum collection show concept by Yuko Hasegawa」龍美術館、上海、中国

2014 「Mono-ha by Anzai」ツアイト・フォト・サロン、東京

「Koji Enokura | Maximilian Schubert」Eleven Rivington、ニューヨーク、アメリカ

「もの派の作家たち」軽井沢現代美術館、長野

「Manners of Matter」Salzburger Kunstverein、ザルツブルグ、オーストリア

「1974: 戦後日本美術の転換点: 開館 40 周年記念展、第 2 部」群馬県立近代美術館、群馬

「ロジカル・エモーション—日本現代美術展」Museum Haus Konstruktiv、チューリッヒ、スイス

「開館 35 周年記念 原美術館コレクション展」原美術館、東京

2013 「現代美術の今・SEVEN TYPES」松坂屋名古屋店、愛知

「Re: Quest—Japanese Contemporary Art since the 1970s」ソウル大学校美術館、ソウル、韓国

「もの派からの出発—小清水漸、榎倉康二」TABLOID GALLERY、東京

「Prima Materia」Punta della Dogana、ヴェネツィア、イタリア

2012 「Requiem for the Sun: The Art of Mono-ha」Blum & Poe、ロサンゼルス／Gladstone Gallery、ニューヨーク、アメリカ

「もの派の作家たちとその周辺」樂翠亭美術館、富山

「SPACE TOTSUKA 70 (木・壁・草・土・家・石・空・地・火・空気・水…)」東京パブリッシングハウス、東京

「コレクション展 70 年代日本の美術—「もの派」を中心として」国立国際美術館、大阪

2010 「いみありげなしみ」東京国立近代美術館、東京

「予兆としての「絵画」」Ohshima Fine Art、東京

「Seeing—6 人の作家による写真表現」富士ゼロックス R&D スクエア ART SPACE、神奈川

「東京画廊+BTAP 60 周年記念展 ミクロサロン 60」東京画廊+BTAP、東京

2009 「光と光が出会うところ」府中市美術館、東京

「Enokura, Nomura, Takamatsu: Photographs 1967-1979」McCaffrey Fine Art、ニューヨーク、アメリカ

2007 「もの派とは？」東京画廊+BTAP、北京、中国

2005 「もの派—再考」国立国際美術館、大阪

- 「オマージュ 榎倉康二 感応の記憶」Nagai Fine Arts、東京
- 2004 「再考：近代日本の絵画 美意識の形成と展開」東京都現代美術館、東京藝術大学美術館、東京
- 「イメージの水位—ナルキッソスをめぐる変容と反射」豊田市美術館、愛知
- 「痕跡—戦後美術における身体と思考」京都国立近代美術館、京都／東京国立近代美術館、東京
- 2003 「あるサラリーマン・コレクションの軌跡～戦後日本美術の場所」周南市美術博物館、山口／三鷹市美術ギャラリー、東京／福井県立美術館、福井
- 「写真で甦るモノ派の記憶」東京画廊+BTAP、東京
- 2002 「未完の世紀: 20 世紀美術がのこすもの」東京国立近代美術館、東京
- 2001 「もの派」ケンブリッジ大学ケトルズ・ヤード、ケンブリッジ／Newlyn Art Gallery、ニューリン、イギリス
- 2000 「2000 光州ビエンナーレ 人+間 韓国・日本の現代美術の様相」光州市、韓国
- 「日本美術の 20 世紀 美術が語るこの 100 年」東京都現代美術館、東京
- 1997 「重力—戦後美術の座標軸」国立国際美術館、大阪
- 1996 「レクイエム—榎倉康二と 33 人の作家」斎藤記念川口現代美術館、埼玉
- 「榎倉康二と 14 人の作家: 東京藝術大学油画第 2 研究室 1991-1995」横浜ガレリアベリ—ニの丘、神奈川
- 「追悼・榎倉康二<浸透する時間>アートキャンプ白州'96」山梨
- 1995 「1970 年—物質と知覚 もの派と根源を問う作家たち」岐阜県美術館、岐阜／広島市美術館、広島／北九州市立美術館、福岡／埼玉県立近代美術館、埼玉／サンテティエンヌ近代美術館、フランス
- 「アジアナ—極東からの現代美術」Palazzo Vendramin Calergi、ヴェネツィア、イタリア
- 1994 「Karada が Art になるとき [物質になった器官と身体]」板橋区立美術館、東京
- 「Aspects (1979-1994) 断面 1979-1994 原美術館開館 15 周年記念展」ハラミュージアムアーク、群馬
- 1992 「70 年代 日本の前衛展」ボローニャ市立近代美術館、ボローニャ、イタリア／世田谷美術館、東京
- 1989 「アートエキサイティング'89—現代を超えて—日豪交換現代日本美術展」埼玉県立近代美術館、埼玉／クイーンズランド州立近代美術館、ブリスベン、オーストラリア
- 1987 「第 18 回現代日本美術展・企画部門「現代絵画の展望—平面と空間」」東京都美術館、東京／京都市美術館、京都／北九州市立美術館、福岡／宮城県美術館、宮城
- 1986 「第 3 回アジア・アート・ビエンナーレ・バングラディッシュ 1986」オズマニー・メモリアル・ホール、ダッカ、バングラデシュ
- 「日本現代美術展」台北市立美術館、台北、台湾
- 「'86 ソウル・アジア現代美術展」国立現代美術館、ソウル、韓国
- 「現代の [白と黒]」埼玉県立近代美術館、埼玉
- 「12 作家の 12 月展」東京画廊、東京

- 「今日の日本書道と絵画展」プラハ国立近代美術館、バルトシュテイン宮殿、プラハ、チェコスロバキア
- 1985 「新館開館 10 周年記念 現代美術の 40 年」東京都美術館、東京
「日本現代絵画」ニューデリー国立美術館、ニューデリー、インド
- 1984 「第 3 回東京画廊ヒューマン・ドキュメンツ'84/'85-3 第 3 期」東京画廊、東京
「現代絵画の 20 年—1960 年～70 年代の洋画と新しい『平面』芸術の動向」群馬県立近代美術館、群馬
「現代美術の動向Ⅲ 1970 年以降の美術—その国際性と独自性」東京都美術館、東京
- 1983 「今日の日本美術展」Musée Rath、ジュネーブ美術歴史博物館、ジュネーブ、スイス
- 1982 「1982 日本現代美術展」Camden Art Centre、イギリス
「現代日本美術の展望—油画展」富山県近代美術館、富山
- 1981 「世界の現代版画 25 年展」東京都美術館、東京／栃木県立美術館、栃木／広島県立美術館、広島
「余韻: Ideas from Japan / Made in Australia」ヴィクトリアン芸術大学ギャラリー、メルボルン、オーストラリア
「日本現代美術展—70 年代日本美術の動向」韓国文化芸術振興院美術会館、ソウル、韓国
- 1980 「第 39 回ヴェネツィア・ビエンナーレ 1980」日本館、ヴェネツィア、イタリア
「ROSC '80 the Poetry of Vision」ダブリン建築大学、アイルランド・ナショナル・ギャラリー、ダブリン、アイルランド
「現代版画の一断面」東京都美術館、東京
- 1979 「第 11 回東京国際版画ビエンナーレ展」東京国立近代美術館、東京／国立国際美術館、大阪／北海道立近代美術館、北海道
「明治・大正から昭和へ—近代日本美術の歩み展」東京都美術館、東京／京都市美術館、京都／愛知県美術館、愛知
- 1978 「第 38 回ヴェネツィア・ビエンナーレ 1980」日本館、ヴェネツィア、イタリア
- 1976 「第 2 回シドニー・ビエンナーレ」Art Gallery of New South Wales、シドニー、オーストラリア
- 1973 「現代日本美術展 1973 現代美術 20 年の展望 第 11 回現代日本美術展」東京都美術館、東京
- 1972 「第 1 回現代日本グラフィック・アート展」I.C.A.、ロンドン、イギリス／西武百貨店、東京
「第 8 回東京国際版画ビエンナーレ展」東京国立近代美術館、東京／京都国立近代美術館、京都
- 1971 「第 10 回現代日本美術展」東京都美術館、東京
「第 7 回パリ青年ビエンナーレ」パルク・フローラル、パリ、フランス

- 1970 「第10回日本国際美術展 Tokyo Biennale '70 <人間と物質 between man and matter>」東京
都美術館、東京／京都市立美術館、京都／愛知県美術館、愛知／福岡県文化会館、福
岡
「現代美術の動向展」京都国立近代美術館、京都
「SPACE TOTSUKA '70 (木・壁・草・土・家・石・空・地・火・空気・水…)」展、横浜市戸塚区中
田町
- 1969 「4人と5つのイベント」村松画廊、東京

主なコレクション

愛知県美術館
天目里美術館、杭州、中国
千葉市美術館
愛媛県美術館
福岡市美術館
岐阜県美術館
群馬県立近代美術館
原美術館 ARC、群馬
広島市現代美術館
ハーシュホーン美術館彫刻庭園、ワシントン DC、アメリカ
兵庫県立美術館
北九州市立美術館
国際交流基金
龍美術館、上海、中国
M+、香港
目黒区美術館
宮城県美術館
東京都現代美術館
埼玉県立近代美術館
大阪中之島美術館
国立国際美術館
東京国立近代美術館
アイルランド国立美術館
ピノーコレクション
ラチョフスキーコレクション、アメリカ
世田谷美術館、東京
高橋コレクション
栃木県立美術館
東京藝術大学大学美術館

豊田市美術館、愛知
和歌山県立近代美術館